

異グ連に新たなプロジェクトが発足しました

JICA支援プロジェクト（通称：アルメニアプロジェクト）の発足

芝 忠

JICA（ジャイカ：独立行政法人国際協力機構）横浜センターが11月20日「神奈川県地域力を活かした国際協力」をテーマに公開セミナーを開催しました。これは神奈川県地域資源を発掘活用し、開発途上国等への研修に、より効果的に対処しようとするものです。

まず①JICA横浜センターより、県内の国際支援活動を行っている団体を半年間にわたって調査した結果の報告があり、②地方自治体（横浜水道局）、③NPO法人（野生生物を調査研究する会）及び、④神奈川県異業種グループ連絡会議からも、国際交流関連の報告を致しました。進行役は“神奈川新聞常務取締役・千葉信行氏”、コメンテーターは“横浜市立大学前学長・加藤祐三氏”“神奈川県立青少年センター館長・小宮久雄氏”“早稲田大学文学部教授・山西優二氏”の3氏でした。

これに先立ちJICA横浜からは、神奈川異グ連の活動状況調査と評価の結果で、「地域経済活性化のための企業創出・育成支援コース（集団研修）」の想定研修実施機関が“神奈川異グ連”であると提案いただきました。これには大変びっくりしました。私どもの国際交流支援活動やベンチャー企業支援活動が、他の機関より相対的に優れているとは今まで考えていませんでした。そのため今回のセミナーでは大変緊張して報告を行ったのですが、進行役の千葉氏からは「JICAが神奈川異グ連を引っ張り出したことが最大の成果である」とまで評価いただき赤面の至りでした。またセミナー参加者アンケートでも「神奈川異グ連の話は大変インパクトがあった」「頼もしく感じた」「異グ連の積極的な発言を心強く思った（途上国において中小企業の活性化はとて重要であると思うから）」等と大変共感を呼んだようで安心致しました。

今後、JICA横浜と中長期的な協力関係を築くとするならば、双方に窓口を設置し、担当者を固定して行いましょうと提案したところ、早速JICA本部より、旧ソ連内のアルメニア共和国に対する共同調査と研修事業が持ちかけられました。来年2月に調査団を派遣したいという意向です。

アルメニア共和国は人口380万人、北はグルジア、東がアゼルバイジャン、西がトルコ、南がイランと国境を接し、カスピ海や黒海に程近い地勢ですが、内陸部のみで両海には接していません。日本大使館は存在せず、ロシア大使館が管轄しています。在日本人は、JICA関係者以外は居ないだろうということです。日本に滞在しているアルメニア人は3人ぐらいということですので、殆ど交流はないと考えて差し支えありません。

研修課題は中小企業の生産管理や品質向上などですが、同国の中小企業セクションの指導的役割を担う公務員が15名ほどで、その国家公務員に対する研修を行うのが支援事業の目的です。いわゆる日本の専門家が企業の現場に対する技術指導を行うということではなく、そういう技術指導を行う国家に対する助言指導という政策研修です。言語は原則、英語と一部ロシア語で、期間は1～11ヶ月、あるいは一年以上の場合もあります。神奈川異グ連はとりあえず神奈川中小企業センター・ビジネスコーディネーターの加藤文男氏と、異グ連理事の松本秀明氏を担当とし、12月20日（月）にプロジェクトを発足させました。今後関心のある方の参加を期待しています。（連絡：045-633-5192芝）

神奈川異グ連・新規プロジェクト

1、[川崎市新産業創出事業支援プロジェクト](#)

12月20日スタート 担当ビジネスコーディネータ他 田中、小野川、相楽

2、[JICA支援プロジェクト（アルメニアプロジェクト）](#)

12月22日スタート 担当ビジネスコーディネータ他 加藤、松本

3、[スポット溶接機器の共同開発・商品化プロジェクト](#)

12月24日スタート 担当ビジネスコーディネータ他 有賀、松本、井上、魚崎、鈴木

主要な“かながわ異グ連”のプロジェクト、及び研究会の活動報告、PR

オールディーズ・シニア・クラブ

小林BC

レポート「昭和30年村計画」、人々の暖かさ・人情味を再現！

ミニ・クラブ「住いと街創りクラブ」の八幡敬和氏が11月12日（金）の定例会で興味あるレポートを行いました。

- 1、題 名：ツカサ都心開発㈱の「昭和30年村計画」。
- 2、計画の趣旨：戦後から高度経済成長期突入までの昭和30年代の古き良き日本の日常生活を再現。そこに住む住人から、無くしかけつつある人々の暖かさ・人情味に触れ合い「懐かしさ」と「新鮮さ」が融合する世代を超えた複合テーマパークを作る。計画のスタートは年明けからとのことです。
- 3、想定面積：約30,000坪。伊豆下田。
- 4、施設概要：1/3 居住区、商業区、教育施設、介護施設。 1/3 テーマパーク施設。
1/3 駐車場区域。
- 5、資金計画：総額30億円。地元金融機関やベンチャー企業・スポンサーで20億円。残り10億円は投資組合（1口50万円、3%の配当、3%相当の利用券受領）。
九州黒川温泉（熊本県）をイメージして作る。生き甲斐を持ち、老若が安心して暮らせる街を作る。
<問合せ先>ツカサ都心開発㈱ TEL 03-3440-0113 FAX 03-3440-0165

シフト21

有村BC

「シフト21」は経営変革を目指す企業と人の交流を図るグループで、業種・業態を問わない幅広い交流を目的としています。毎月第2火曜日に定例会を開催し、外部講師による講演、会員からの話題提供による議論、先進企業視察などを通じて交流と研鑽を図っています。

1月定例会は1月11日（火）午後6時～8時半、東武第三ビル（横浜駅徒歩10分）で行います。シフト21では参加を歓迎しております（初回参加は無料）。お問合せは有村までお願いいたします。

hda00467@nifty.ne.jp

新機能環境適応型舗装等プロジェクト

織方BC

舗装材のバインダーとしての複合合成繊維樹脂を「アースワン」という名称で商標登録をし、さらに新舗装材以外の二次製品の一例として、視覚障害者向け歩道用の「エスコートライン」を開発中であることを、第25号（10月号）で紹介しました。視覚障害者用点字ブロック（凸凹区域）の代わりに、凸凹のないエスコートライン（特許申請中）を事業化しようとしています。

身障者の杖の感覚により、通常の歩道に埋め込まれたエスコートライン（現状は点字ブロック）を識別しようとするもので、一般舗装との違いを、杖を経由しての感触で察知しようとするものです。

NPO法人「D&D夢と多様性」と提携し、横浜国立大学・大田研究所と学生の協力も得て、近日中に横浜国大構内において実験に入る予定です。

三浦海洋深層水を楽しむ会

八幡BC

当会の顧問として、研究者の立場から毎回指導して頂いている中島敏光博士（独立行政法人 海洋研究開発機構）が代表理事となって、特定非営利活動法人「日本海洋深層水協会」を10月に設立された。この設立記念と第一回海洋深層水全国フォーラムが11月21日（日）地元横浜で開催されました。わが「三浦海洋深層水を楽しむ会」も11月の定例会をこれに合流して、全国にアンテナを立て、中島博士の盛り立ての一助を果たしました。

三浦の海洋深層水問題は三浦で解決できるという性格のものでなく、日本国内においても北は北海道から南は沖縄まで、16箇所19本の取水が行われようとしている時、お互いがネットワークを構築して、海洋深層水の素晴らしい利用を多くの人たちに理解し、支援してもらわねば、韓国をはじめ東南アジア諸国に市場を席卷されないと限らない課題を抱えている。

現在、海洋深層水の利用は、水産、農業、エネルギー、健康等分野への展開及び関連製品開発へと多様化し、深化しながら拡大している中であって、全国から実務者、行政、大学等から150名余が集まった今回のフォーラムは、当楽しむ会としても感激できる規模として質的に充実したものであった。

前回の記事でもご案内したように、本部は横浜（電話045-312-1321）に置かれており、産・学・官・民の連携によって活動を推進していただけるので、異グ連関係者各位のご声援を期待しています。

第49回日韓ビジネス協議会

高橋BC

第49回・日韓ビジネス協議会は11月25日(木)に(社)神奈川中小企業センター5階会議室で開催しました。内容は下記の通りで出席者は12名でした。

- 1、挨拶・・・瀧澤会長
- 2、日本ベンチャー企業紹介 モウエ・キャスト社長・馬上行雄氏「義歯パラフィンワックスの再生器」
- 3、最近の韓国情報 韓国中小企業振興公団 日本事務所長・朴 魯鍊氏
- 4、NPO法人・IES国際交流支援協議会について 理事長 岡田めぐみ氏
- 5、韓国企業との取引について 松木商事(株) 社長・松木國俊氏

12月は休会にし、次回の第50回・日韓ビジネス協議会は 来年の1月26日(水)に新年会を兼ねて開催致します。関心ある企業の参加を歓迎致します。

1. 日時：1月26日(水) 午後3:00～5:00
2. 場所：神奈川中小企業センター5階会議室 or 6階特別研修室
3. 会費：3,000円の予定(新年会費を含む)

参加時には事務局の高橋まで連絡して下さい。TEL:045-311-0094

神奈川中小企業センター、神奈川異グ連及び関連行事(年末年始) 異グ連事務局(広報)

- 12月20日(月) JICA支援プロジェクト発足会
- 12月22日(水) am20周年記念座談会、pm2004年7団体一年総まくり交流会
- 12月24日(金) スポット溶接機器共同開発プロジェクト発足会
- 01月05日～7日 神奈川県中小企業技術支援制度説明会(神奈川県庁、産総研)
- 01月06日(木) 異グ連事務局スタッフ会議、神奈川中小企業センターABC会議
- 01月18日(火) 新春講演会「中小企業経営革新等総合支援法」、3地区合同産学公交流サロン
- 01月26日(水) 神奈川中小企業センター「公的助成金取得集中相談会」
- 02月02日～4日 テクニカルショウヨコハマ2005
- 02月14日(月) 地域中小企業と大学との共同活動[中小企業異業種交流財団]

新春講演会のお知らせ!! 第27回中小企業政策研究会及び3地区合同の産学公サロン 異グ連事務局(広報)

すでにご存知と思いますが、経産省・中小企業庁は、05年度通常国会にて「**中小企業新事業活動促進法(仮称)**」の成立をめざしていますが、これは現行の「**経営革新法**」「**創造法**」「**新事業創出促進法**」の中小企業支援3法を1本化し、現行法の柱である「**創業**」「**経営革新**」に加え、新たに「**新連携**」をその柱に据えるものであり、中小企業経営者の方々、中小企業の支援に携わっておられるの方々には関心の高いものです。2005年冒頭の新春講演会では、この新法の最新情報を取り上げます。

また2004年スタートした「産学公サロン」の1年間を振り返り、その成果を3地区(川崎、横須賀、横浜)合同で意見交換を行いたいと思います。

どなたでも参加していただけます、多数の方々のご参加を期待しております。

- 1、日時：H17年1月18日(火) 15:00～18:30
- 2、場所：神奈川中小企業センター14F多目的ホール
- 3、内容：15:00開演
 - 15:10第27回中小企業政策研究会
新春講演「中小企業の新連携を支援する(仮題)」
経済産業省・中小企業庁創業連携推進課長 北川 隆文氏
 - 16:20質疑と休憩
 - 16:45産学公サロン3地区合同発表大会(仮題)
川崎、横須賀、横浜から1年間の状況報告と質疑
 - 17:15～18:30意見交換と懇親会
- 4、担当：中小企業政策研究会(島津(俊))、川崎(田中(繁))、横須賀(八幡)、横浜(河津)
- 5、会費：1000円(予定)

<申し込み、問い合わせ>神奈川異グ連事務局(芝、志村、島津(俊))

TEL 045-633-5192、FAX 045-633-5194

産学官交流サロンのコーナー**気楽に参加できる『神奈川新産学公交流サロン・よこはま』**

異グ連事務局（広報）

「神奈川新産学公交流サロン・よこはま」は、目的を県内の新産業創出、育成支援とし、多くの経済団体や企業、大学機関、公的機関の方が個人ベースで、自由に、気楽に参加できる「交流型解決機能」を持つサロンとして、起業家や中小企業が抱える技術、経営上の様々な課題のテーブルマッチングを図ります

第1回(09/22)岩手大学・清水教授による「岩手ネットワークシステムのお話」

第2回(10/14)よこはま経済新聞社・杉浦編集長の「電子新聞の発行」

ラムー建築計画・佐々木氏による「ユニークな店舗設計」

第3回(11/18)横浜にLRTを走らせる会・古川副理事長による「市民の力で横浜にLRTを走らせよう」

第4回サロンは12月16日（木）に30名余が参加され、開催されました。

スピーカー①は、NPO 法人日本海洋深層水協会副理事長・近 磯晴氏による「日本海洋深層水協会の概要と活動」で、未知の世界への興味を大変そそられました。

スピーカー②は、東京海洋大学助教授・中村 宏氏（知的財産本部副本部長）による「産学連携での知的財産本部の役割」で、痛快かつユーモアのある解説で、会場が大いに沸きました。

第4回幹事団は河津明男（総合）、魚崎誠也（受け付け）、三好秀人（司会進行）の皆様でした。

第5回サロンは、2月中旬を予定しています。来年もよろしくお願ひいたします。

<問合せ> 幹事長：(社)経営開発情報機構 理事長 河津明男 E-mail idea-info@ideabank.or.jp

横浜市中区南仲通3丁目35番地 横浜エクセレントIII TEL 045-212-5546 FAX 045-212-5547

！第5回三浦半島経済人サロンの報告（詳細）！

八幡BC

第5回（11/25）の話題提供は、横須賀市追浜商店街の空き店舗に“まちなか研究室”をオープン（10/01）させた関東学院大学工学部社会環境システム学科・昌子住江教授にお願いしました。

まちなか研究室は国道16号線沿いに追浜駅前を50m過ぎた所に有って、「追浜こみゆに亭」と名付けられ、今まで人通りがなかった商店街に学生が往来するようになり、また12の研究会を一般に公開した地域コミュニティ活動も開始しています。寄席から、ものづくり、観光など気軽な参加によって新たな動線を作ると共に、学生には社会との融和と学習効果が期待されています。その研究会の一つであるワイン研究会は、実際にワインを醸造し、販売しようというもので、三浦海洋深層水を利用してワインを作るという発想だから嬉しい話です。年末には国税局の酒税許可が下り、それから葡萄汁を仕込んで醸造するという事なので、来春にはデビューすることと期待されます。さらに最近、地元の貝山をあんず山にするという計画が進められていますので、3年後ぐらいには“あんずワイン”にも挑戦する計画があるようです。

とにかく元気になる話で参加者からの質問・意見が途切れず、司会はお陰でビールも禄に口に出来ない忙しさに、久しぶりに当たりを感じた次第です。

来年1月が3サロン合同のため、第6回横須賀サロンは2月末頃を考えています。今後も身近なテーマを取り上げていきたいと思っていますので、ますますご愛顧の程よろしくお願ひいたします。

かわさき経済人ネットワークサロン第6回

異グ連事務局（広報）

川崎サロンは2月スタートより既に6回の開催となりました。今回（12/08）は、KSPかながわサイエンスパーク西棟3F310会議室で開催し、KTF（神奈川高度技術支援財団）が進めてきた県内14大学の研究成果を育成し、実用化につなげるRSP事業（Regional Science Promotion）の具体例を紹介いただき、意見交換を行いました。

話題提供者は、神奈川高度技術支援財団技術支援部長・森 修身氏にお願いし、テーマは「KTFが推進しているRSP事業の事例紹介」でした。

また飛び入りで、NPO法人“D&D夢と多様性”のクリスマスコンサートの紹介があり、当日「歌と絵本の語り」で出演される磯田楨子氏から歌をご披露していただきました。

来年度も充実したサロンとしていきたい皆様のご意見ご提案をお願ひいたします。

<問い合わせ> FAX 045-633-5194 神奈川異グ連（芝、志村、田中、小野川）

電子メール：s-tanaka@saturn.dti.ne.jp 田中繁夫

かながわ異グ連会員の方、会員でない方、どなたでも自由に情報交換・投稿が出来ます。

（投稿先：事務局（広報）小野川利昌 onogawa@hkg.odn.ne.jp、FAX 044-954-6254

相楽 守 mamorusagara@mve.biglobe.ne.jp FAX 03-3701-9712）